

研修と実践の往還を大切に

古平町立古平小学校

古平町立古平小学校は、北海道立教育研究所と連携しながら継続してプログラミング教育の取組を進めてきました。

プログラミング教育に関する校内研修のポイントと学校が組織的に取組を進めるための方策について、担当の秋田教諭に伺いました。



Q プログラミング教育の取組を どのように進めてきましたか？

プログラミング教育の取組が示された際、プログラミング教育とはどのようなものかイメージができずに、取組の見通しがもてませんでした。

そこで古平小学校では、北海道立教育研究所から講師を招いて、プログラミング教育のねらいや授業づくりの考え方について理解を深めるための校内研修を実施しました。

現在は、研修で学んだことを生かして、授業実践の取組を進めています。



▲古平町立古平小学校 秋田 匡 教諭

Q 校内研修の効果を高めるために、どのような工夫をしましたか？



▲古平小学校における校内研修の様子

これまでに行った研修の中で、特に効果的だと感じたのは「プログラミング体験」です。実際にプログラミングを体験することにより、授業におけるプログラミングの活用の仕方について、イメージをもつことができました。

また、プログラミングを位置付けた授業を校内に公開することは、とても有意義だと感じます。

プログラミングの際に、児童が相談しながら互いの考えを深めたり、これまでの学習内容を活用したりする姿を見ることで、一人一人の先生がプログラミング教育に取り組む趣旨を実感できたようです。

Q 学校が組織的に取り組むために、どのようなことが大切ですか？

学校が組織的な取組を進めるためには、学校や児童の実態を踏まえて、プログラミングを位置付けた指導計画を作成・改善することが必要です。

また、プログラミングが単なる体験で終始しないように、プログラミングを通して育む資質・能力について、研修などを通して共通理解を図ることが大切です。

コンピュータの扱いに苦手意識をもつ先生も多いので、研修を継続的にを行い、どの先生も安心して指導できる体制を整えることも大切です。



キーワード

教師によるプログラミング体験

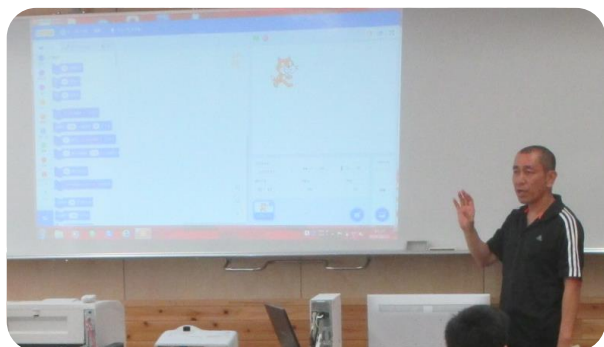
プログラミングを位置付けた授業の参観

研修と実践の往還

古平町立古平小学校での授業実践の様子

学年・教科・単元：第6学年・算数科「6年間の算数のまとめ」

本時のねらい：正多角形の性質を用いて、正多角形を作図するプログラムを考える。



- ① これまでの学習を振り返り、正多角形の性質を思い出す。
- ② プログラミングソフトの基本的な操作方法を確認する。
- ③ 本時の学習課題を共有する。

【課題】 いろいろな正多角形をかくためのプログラムを考えよう。

- ④ これまでに学習した正多角形の性質を生かして、正方形や正三角形を作図するプログラムを考える。



- ⑤ 考えたプログラムから規則性を見出し、角の数が多い正多角形を作図するプログラミングに取り組む。（十分に時間を確保する）



【まとめ】

これまでに学習した正多角形の性質を使うことにより、いろいろな正多角形をかくプログラミングができる。

<授業実践で大切にしたこと>

- ① これまでの学習内容を生かしてプログラミングに取り組むことができるよう、導入において、前時までの学習を振り返る場面を設けました。
- ② プログラミングを通して児童の思考力が育まれるよう、児童が試行錯誤しながらプログラミングに取り組む時間を十分に保障しました。